

とちぎから社会の若きリーダーを生み出す

ー学生・若者のチャレンジ応援コミュニティづくりー

宇都宮市創造都市研究センター アントレプレナー研究グループ 作新学院大学 人間文化学部 2年
山内祥輝（やまうち よしき）、斉藤陽夏（文星芸術大学2年）

【概要】本プロジェクトは、栃木県の高中生や大学生などの若者のチャレンジ精神や主体性を引き出すことを目的にした場づくりを目指している。近年、新たな事業を生み出したり、発見したりする力として、アントレプレナーシップが注目を集めているが、ハードルが高く、多くの若者は起業や創業まで思いが及ばないのが現状である。そこで本プロジェクトでは、チャレンジしたいが何を、どうすれば良いか分からない若者が集い、講師や集まった若者同士でディスカッションを通して、「はじめの一步」を後押しし、創出するコミュニティづくりを目指す。

【栃木を元気にするには】まちづくりとは人づくりである。人から言われたことを黙々とこなすことも大切であるが、AIなどの普及によりそうした人々の仕事は年々少なくなることが予想される。本事業によって、栃木県内において主体的に物事を考え、様々なことにチャレンジする人材が増えることは、本県の産業の発展やまちづくりの進展に大きく寄与するものと考えている。また将来の創業に連なる機会が生まれれば、未来を拓く企業経営ができる人材育成を通して、栃木地域の発展に大きな貢献が期待できる。

1. プロジェクトの背景

本プロジェクトは、宇都宮市内4大学（作新学院大学・宇都宮共和大学・帝京大学宇都宮キャンパス・文星芸術大学）と宇都宮市、宇都宮商工会議所、企業、NPO等によって構成されるまちづくりプラットフォーム「宇都宮市創造都市研究センター」の私たち学生研究員（4大学連携ゼミ）によって構成されている。このゼミでは、参加する学生たちのアントレプレナーシップを養成するとともに、様々な主体と連携し、最終的には報告者たちが様々な事業を展開することを目指している。

2020年9月のゼミキックオフイベントでは、栃木県内における若者の起業支援をするNPO法人とちぎユースサポーターズネットワークの岩井俊宗氏をコーディネーターに、㈱エンターテインの常川朋之氏や高校生で起業した館野知紘氏の講演をお聞きし、アントレプレナーシップとはいかなるものなのかを学んだ。その後、宇都宮市産業政策課との意見交換やうつのみや次世代産業イノベーション推進会議が主催する「オープンセッションフライデー（全国の起業家たちとのWeb交流イベント）」に参加した。これらの活動を通して私たちが考えたのは「自分の意思やアイデアで事業を起こし、成し遂げることがないのに、起業家などの話を聞いてもピンとこない」ということであった。また、「何かをやってみる」と言われても、成功体験が少ない若者にとっては、失敗を恐れるあまり、「なかなか行動に移せないのではないか？」と感じた。おそらく、事業を起こすことへの漠然とした不安から解放されたい限り、起業創業のチャレンジや、アントレプレナーシップを持った若者人材の増加も期待できないと考えた。

そこで本事業では、アントレプレナーシップを高めるための第一ステップとして、事業を起こすことへの初歩的な知識を得たり、不安等の相談に乗ることで、はじめの一步を踏み出す場づくりを目指す。

2. コミュニティづくりまでの過程

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言等により、本格的な事業開始は2021年4月となった。まず、起業促進を進める宇都宮市産業政策課や㈱エンターテインの常川氏との意見交換などを行った。また、上記のようにコミュニティづくりの参考とするため、オープンセッションフライデーに参加し、起業家の話を聞くとともに、意見交換、名刺交換などの人脈作りも進めた。さらに、若者の支援を行う、NPO法人とちぎユースサポーターズネットワークの岩井氏や、NPO法人キーデザインの土橋優平氏に対し、ヒアリング調査を行い、コミュニティづくりについてのアドバイスを頂いた。

表1 チャレンジ応援コミュニティ開催までの過程

年度	月	事業名	連携・関連団体・企業	報道の有無
2020年度	9	ゼミキックオフイベント	宇都宮市産業政策課、NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク、(株)エンターテイン	下野新聞、日経新聞
2021年度	4	宇都宮市産業政策課職員とのディスカッション	宇都宮市産業政策課	なし
	5-6	起業家とのWeb交流イベント「オープンセッションフライデー」にスタッフとして参加	宇都宮市産業政策課、NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク、(株)エンターテイン	なし
	6	若者の起業支援、不登校サポートの事業者へのヒアリング調査	NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク、NPO法人キーデザイン	なし
		とちぎユースチャレンジ応援事業採択	栃木県民生部人権・青少年男女参画課	なし
	9	光琳寺住職 井上広法氏への講師依頼、企画説明 とちぎユースチャレンジ応援事業におけるブラッシュアップ研修(㈱つばめソリューション石川社長)	光琳寺 (株)つばめソリューション、栃木県民生部人権・青少年男女参画課	なし
	11	第1回学生・若者のチャレンジ応援コミュニティの開催(11/19) ※以後、3週間に一度のペースで開催	光琳寺、栃木県民生部人権・青少年男女参画課	未定
	2	シンポジウム形式の成果報告会	未定	未定



写真1 キックオフイベント



写真2 市職員を交えた
ディスカッション



写真3 オープンセッションフライデー

一方、コミュニティを作るにあたり、会場や講師の招致費用が必要になる。そこで栃木県人権・青少年男女参画課の「とちぎユースチャレンジ応援事業」に応募し、書類審査、面接の結果、採択を受け、栃木県より10万円の補助を受けた。その事業の一環として、9月に(株)つばめソリューションの石川慎太郎氏よりコミュニティの集客方法等についてアドバイスを頂いた。

3. 今後の事業計画

11月19日(金)18時から光琳寺にて、第1回のチャレンジ応援コミュニティを開催する。講師&コーディネーターは、住職の井上公法氏に務めて頂き、「ポジティブに生きる方法」をテーマに実施する(ワークショップ形式)。参加者募集は、各大学でチラシを配布するとともに、Facebookなどを通じて周知し、定員10名で行っていく。参加者は固定で3週間に1度に会場や講師&コーディネーターを変えながら、はじめの一步を踏み出すための意識を構築する事業としている。なお、今後開催するコミュニティでは毎回課題を出すことを計画している。これは、どのような小さなことでも良いので、3週間の間に小さな一步(ハードルが低めの行動)を設定し、期間中に実行し、それを次の会で報告、参加者間で意見交換を行う。この自分で考え、行動することにより、チャレンジ精神の高揚を目指す。なお、これらの報告は、随時メンバーが確認できるようにInstagramのストーリーを活用することとする。

11月以降は、5回程度の集まりを行い、2月に報告会を兼ねたシンポジウムを開催する。シンポジウムは、コミュニティに参加した若者が主催者となり、企画、運営を行う。50名以上が入る公共施設を利用する予定である。このイベントを成功させることが、私たちメンバーの卒業試験になり、学生・若者がチャレンジし、それを応援する機会を創出するコミュニティづくりの実現に寄与できると考える。